南米のワイナリー、2026年に三つの異なる圧力に直面

新たな報告書は、アルゼンチンの9月販売量4.7%減、チリの輸出低迷、ウルグアイの収穫量13.2%増を、地域の利益率を圧迫する要因に挙げた

2026年11月12日（木）



南米のワイン業界は現在、アルゼンチンの国内需要の低迷、チリの輸出需要の軟化、そして収穫量が増えたウルグアイでの在庫増という、三つの異なる圧力に同時に直面している。全体として、消費動向のばらつき、供給の販売先確保の難しさ、利益率への圧力の高まりに、各国のワイナリーが対応している状況が浮かび上がる。

11月11日水曜日に公開されたWineMag.itの報告書によると、2026年の最新データは、負荷が一つの市場やワインの種類に集中しているわけではないことを示している。むしろ、同じ業界の中で3カ国がそれぞれ異なる課題を抱えており、生産者は販売計画や商品構成、市場戦略の見直しを迫られている。

アルゼンチンでは、主な圧力は国内市場から来ている。2026年9月の国内向けワイン出荷量は707,145ヘクトリットルで、2025年9月から4.7%減少した。減少幅は年初から9カ月間の傾向より大きく、同期間の国内販売量は0.2%減の548万ヘクトリットルだった。このことから、9月単月の数字に比べれば通年の状況はなお安定しているとみられるが、月次の減速は依然として目立った。

アルゼンチンの低迷は、カテゴリー全体に一様に広がったわけではない。品種表示のあるワインは9月に14.3%減、1〜9月には18.1%減と、最も大きく落ち込んだ。品種表示のないワインは9月に0.2%減少した。一方、スパークリングワインは3.6%増、その他のカテゴリーは13.4%増となった。

消費者需要には、色による違いも見られた。白ワインは9月に8%増加した一方、赤ワインとロゼワインは9.3%減少した。この内訳は、市場全体が一様に縮小しているのではなく、カテゴリー内で需要が移り、一部のセグメントにより強い圧力がかかっていることを示している。

チリでは、主な課題は海外需要にある。報告書によると、2026年1〜9月のボトルワイン輸出は、数量で5.3%、金額で5.2%減少した。この落ち込みは、輸出全体の減速傾向の一環だ。WineMag.itが引用したチリ農業局Odepaの10月発表によると、同期間のワイン輸出全体は数量で8.8%、金額で6.4%減少した。

バルクワインはさらに大きな圧力を受けた。このセグメントの輸出量は11.4%減少しており、苦戦がプレミアム市場やブランド品の販売チャネルに限られないことを示している。データからは、特に大口取引に依存する市場の一部で、供給を吸収することが依然として難しい状況がうかがえる。

チリの輸出実績は、仕向け先によってもばらつきがあった。ボトルワインの販売はブラジル、英国、ロシアで増加した一方、米国、中国、日本では減少した。この違いは、生産者が世界需要の単一の回復に頼るのではなく、市場の多角化を図っている理由の一端を説明している。

WineMag.itによると、チリ企業は新市場の開拓と商業戦略の見直しを並行して進めている。具体的には、ワインツーリズムへの投資、ブランドポートフォリオの厳選、よりフレッシュで軽やかな低アルコールワインへの注力が挙げられ、脱アルコールワインも含まれる。この動きは消費者の嗜好の変化を反映しており、ワイナリーがワイン業界内だけでなく、飲酒者の選択肢がかつてより増えた低アルコール飲料やノンアルコール飲料を含む飲料市場全体との競争にも対応しようとしていることを示す。

ウルグアイが直面しているのは、販売先の市場が容易に吸収できないほどワインが増えているという別の課題だ。2026年の収穫量は、約9,320万キログラムのブドウから7,039万リットルとなり、2025年比で13.2%増加した。4月に終了した収穫は、好天に恵まれた。WineMag.itによると、問題となる雨がなかったため、衛生上の懸念から早摘みを余儀なくされる場合とは異なり、ブドウは最適な熟度で収穫できた。

しかし、生産の回復に対し、国内消費は低迷し、在庫は積み上がっている。報告書によると、ウルグアイのメディアは、ワイナリーの貯蔵庫に売れ残ったワインがあることや、企業の資金繰りを圧迫しかねない販売上の困難を伝えている。資金繰りの逼迫は、次のシーズンのブドウ購入に関する判断に影響し、ワイナリーへの圧力がブドウ生産者にも及ぶ可能性があるため、これは重要な問題だ。

ウルグアイでは、物流や港湾の問題も商業運営上の障害として挙げられているが、入手可能な情報からはその正確な影響は測れない。具体的な推計がなくとも、生産量の増加、需要の低迷、既存在庫の組み合わせは、ワイナリーにとって販売環境が一段と厳しくなっていることを示している。

三つの市場を合わせて見ると、南米のワイン流通網では異なる形の圧力が生じている。アルゼンチンでは、特に品種表示のあるワインを中心に国内需要が鈍化している。チリでは、ボトルワインとバルクワインの出荷がともに減少し、輸出実績が悪化している。ウルグアイでは、市場が軟調な中で収穫量が増え、在庫が積み上がっている。

こうした動向は、ワインにとどまらず飲料業界全体にとって重要だ。国内販売の減少、輸出チャネルの弱含み、在庫の増加は、価格設定や販促活動、商品開発に影響を及ぼす可能性がある。同時に、飲酒習慣が変化する消費者をめぐる競争の中で、生産者がより軽やかなワインや低アルコール商品、代替商品へと向かう要因にもなり得る。